

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
令和6 年 4 月 30 日	
富山県知事 新田 八朗 殿	
提出者	
住 所 富山市向新庄町三丁目7番22号	
氏 名 株式会社森崎	
代表取締役 森崎 雅久	
電話番号 076-451-4563	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他の処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社森崎
事業場の所在地	富山市向新庄町三丁目7番22号
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	建設業（解体工事含む）
② 事業の規模	（元請額）123,067千円
③ 従業員数	40名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙「産廃処理システム」の通り

（日本産業規格 A列4番）

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙「産廃処理」システムの通り

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（        5 年度）実績】      単位： t						
	産業廃棄物の種類	コンクリート・ アスファルトくず	木くず	廃プラスチック類	がれき 類	廃石膏 ボード	その他(混 合廃棄物 等)
	排        出        量	6978.91	401.03	6.63	169.44	86.99	101.57
	(これまでに実施した取組) ・コンクリートがらは、現場にて選別し、有価物（金属くず）を取り除き減量している。 ・木くずは、現場にて選別し、柱材・燃料チップに再利用できるよう分別している。						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	コンクリート・ アスファルトくず	木くず	廃プラスチック類	がれき 類	廃石膏 ボード	その他(混 合廃棄物 等)
	排        出        量	6000	1200	10	200	50	90
	(今後実施する予定の取組) ・解体工事の請負の頻度により、排出量が大幅に変化するが、選別分別を徹底し、有価物として販売できるよう品質を考慮していく。						

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・コンクリートがらより、鉄くずを取り除き、有価物として売却。 ・木くず、燃料チップは有価物として県外に売却。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・コンクリートがらより、鉄くずを取り除き、有価物として売却促進に努める。 ・木くず、燃料チップは、県外売却にコストがかかる為、県内での販売に取り組む。

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（        5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	— t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（        5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	— t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	— t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	— t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	— t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度（ 5 年度）実績】 単位：t	
産業廃棄物の種類	コンクリート・アスファルトくず 木くず 廃プラスチック類 がれき類 廃石膏ボード その他（混合廃棄物等）
全 処 理 委 託 量	6978.91 401.03 6.63 169.44 86.99 101.57
優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	
再生利用業者への 処 理 委 託 量	6978.91 401.03 5.33 169.44 4.31 -
認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	
（これまでに実施した取組） ・ 関連会社で、殆ど再利用できるような仕組みを作り、それぞれの会社で、更に分別して再利用できる品質を選び出している。 ・ 自社グループで選別できないものを他社の中間処理場に依頼し、再度選別再利用をお願いしている。	

## (第5面)

②計画	【目標】 単位：t						
	産業廃棄物の種類	コンクリート・アスファルトくず	木くず	廃プラスチック類	がれき類	廃石膏ボード	その他(混合廃棄物等)
	全 処 理 委 託 量	6000	1200	10	200	50	90
	優良認定処理業者への処 理 委 託 量						
	再生利用業者への処 理 委 託 量	6000	1200	5	200	35	
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量						
	(今後実施する予定の取組)						
	・再生砕石（ＲＣ）材料の公共工事等の建設工事への利用を促進 ＰＲに努める。						
	・木くずの燃料チップ化の増産・新潟県への搬入か県内需要先を 確保・開拓していかなければならない。						
※事務処理欄							

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

(1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。

(2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じた事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

(3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

請  
じ  
ま  
と。

中  
間

量  
行  
収  
あ  
へ

と  
の  
入

- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(株)森崎

